

一般社団法人

香川県作業療法士会ニュース

発行：(一社)香川県作業療法士会広報部
事務局：〒769-0205 香川県綾歌郡宇多津町浜5番丁62-1
四国医療専門学校 作業療法学会内
(一社)香川県作業療法士会事務局

URL:<http://kagawa-ot.or.jp/> E-mail:kagawa-ot@star.ocn.ne.jp

「時代の先を読む」

副会長兼事務局長 松本 嘉次郎

新年早々、暖冬であり、全国のスキー場が雪不足となっているようです。毎年、異常気象と言われ、何が異常で何が正常なのかが分からない四季になりつつあるように思います。

さて、会員の皆様も今年度が終わりに近づき、来年度の準備で忙しい日々が続いているのではないのでしょうか。2015年の10だいニュースでは、1位が大村さん、梶田さんのノーベル賞の受賞であり、2位がラグビーW杯で日本が歴史的に3勝を挙げたニュース、3位にはイスラム国、4位にはマイナンバー制度となっているそうです。

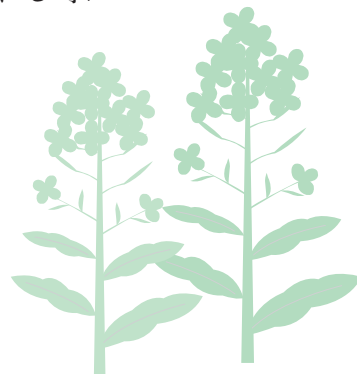
上位2つのニュースでおめでたい話が聞かれたことは良いことだと思いますが、皆さんの昨年はいかがだったでしょうか。また、今年はどのような年にしていくのでしょうか。

私個人としては、昨年は(現在もですが)、色々な事に振り回された状態での仕事となり、各関係者や職場の方にも迷惑をかけた年だな…と、反省しきりです。

今年こそは、落ち着いて仕事やプライベートに取り組み、そして自分のための時間を取れるようになりたいと心の底から考えています。(中々、要領が悪いので…)

さて、この国としては介護保険改正から早くも1年が経ち、また4月には、医療改正も行われます。県だけでなく国全体として、大きな変革が近づいているように感じます。個人としても作業療法士としても作業療法の組織としても色々な立場で変化がせまられる時になっているように思います。変化についていっただけでなく変化に対応し、「時代の先を読む」そんな人になりたいと不安を抱きながら考えています。

会員の皆様にとって、明るいそして充実した年になることを願いこの巻頭言の挨拶とさせていただきます。



学術部 報告

- ・平成27年10月11日 第2回学術研修会
- ・平成27年12月6日 第3回学術研修会
- ・平成28年1月17日 第17回香川県作業療法学会

第2回学術研修会

担当委員 泉 健二

2015年10月11日(日)に、サンメッセ香川において、茨城県立医療大学 作業療法学科教授 齋藤さわ子先生を講師にお迎えし、「作業療法らしさって何だろう?」をテーマに、第2回学術研修会を開催することができました。参加者総数は36名で、県士会委員以外の方(他県士会員やPT、学生)も幅広くご参加いただき有意義な研修会となりました。

研修内容においては、講義に加え、随時ワークショップ形式でも行い、実技を取り入れながら、「作業療法らしさが見えなくなった理由」や「作業療法における『作業』の重要性」を様々な観点よりご教授いただきました。

日本では、他職種と作業療法士との違いは明確には分かりにくくなっており、クライアントに対して、作業療法を実践していく中でその評価や治療、介入に対して悩んでいる作業療法士はたくさんいると思われます。講義の中では、作業療法での「作業」の意味や作業を用いての評価・治療・介入方法を具体的にご説明いただきました。実技では作業遂行観察評価の重要性について、実際にデモンストレーションを交えながらご説明がありました。作業遂行中における評価ポイントや分析方法を具体的にご指導いただき、すぐにでも臨床で実践していけるような内容でした。

最後に作業療法士は、コンピューターやロボットに取って代わられることのない職業で第6位にランクしている。なぜなら作業とは、「その人が、人々が、したい、する必要がある、そしてすることを期待されていること」であり、これができるのが作業療法士であるからとのことです。「作業療法における作業とは何であるか」を改めて考えてみるよい機会となり、その専門性や特異性を、今後の臨床において生かしていければと思いました。

お忙しい中、研修を快く引き受けてくださった齋藤先生に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。また、運営に携わっていただいた第2回学術研修会担当委員の皆様、準備から運営まで大変お疲れ様でした



第3回学術研修会

担当委員 東 麻 衣

平成 27 年 12 月 6 日（日）に第 3 回学術研修会がユープラザうたづにおいて開催されました。今回は、「包括的暴力防止プログラム（CVPPP）」をテーマに、香川県立丸亀病院看護師 沖野一成氏、仁木辰哉氏（CVPPP インストラクター）を講師にお招きし、講義と実技をしていただきました。「包括的暴力防止プログラム（CVPPP）」とは、暴力が起こらないように予防的介入を行い、暴力によって引き起こされる不利益から患者を保護し、かつ患者が暴力や攻撃的でない手法で対処することができるよう援助するプログラムです。講義では、患者の攻撃性や暴力を医療的な視点から捉え、どう対処していくかという専門的な知識を教えてくださいました。実技では、実際に患者に腕を掴まれた場合、髪を掴まれた場合、背後から肩を掴まれた場合など、状況別の対処方法や、チームを組んで行う介入方法を学びました。実際の医療現場でも起こりえる状況を想定しての実技は非常に分かりやすく、適切に対処できる方法を学べたのは大変有意義なものとなりました。研修会のアンケートからは、「直接の身体介入法以外にも、それに至らないまでの方法や暴力についての背景・知識が得られた良かった」との感想をいただきました。今回は、お忙しい中ご講演、実演していただきました沖野先生、仁木先生、CVPPP トレーナーの先生方、またご参加いただいた先生方、誠にありがとうございました。また、研修会担当の学術部の皆様、準備、運営ありがとうございました。



第17回 香川県作業療法学会

実行委員長 渡辺 正人 (高松協同病院)

平成28年1月17日に、丸亀市綾歌総合文化会館アイレックスで第17回香川県作業療法学会が開催されました。130名を超える参加者に来場して頂きました今回の特別講演は、神奈川県リハビリテーション病院の作業療法士である松本琢磨先生に『作業療法の進化と真価～丁寧な臨床を目指して～』と題して、実際の患者様のビデオや実技も交えて講演をしていただきました。患者様と向き合う大切さや療法士として知識や技術を研鑽し続ける重要性を松本先生自らの行ってきた臨床を



ベースとして話をしていただきまして、私も含めまして会場の参加者全員が改めて日常生活動作を支援するプロフェッショナルである作業療法士の原点に立ち返るような気持ちになりました。

初めて企画しました「自助具・治療器具コンテスト」は、県内の作業療法士及び養成校の学生から、片手でゆで卵が剥ける自助具や手指の痙性を抑制する治療器具などの10作品のエントリーがありました。当日に実施した参加者からの投票と実行委員会での検討にて優秀賞を決定しまして、後日ホームページにて公表することとしています。一般演題については、これまでにない多数の18演題の発表がありました。県内の作業療法士の臨床や学校教育及び地域での活動などに対する熱心な思いが報告されて、参加者からの活発な質問や意見交換がなされました。

当日は朝からの冷え込みも強く寒い一日となりましたが、無事に学会を終えることが出来まして特別講師の松本琢磨先生や参加者及び関係者に対しまして、改めて感謝申し上げたいと思います。来年度の第18回香川県作業療法学会も県士会員の皆様にとって有意義な時間となるように企画してまいりますので、皆様の参加を宜しくお願い致します。



～リレーエッセイ 38～

【一期一会】

滝宮総合病院 鎌田 雄大

30歳を過ぎてから結婚や息子の誕生などの家庭・家族に関するライフイベントが多くなりました。自分の役割も夫や父親が加わり、日々の仕事に加えて、急がしくも楽しく充実した毎日を送っています。

現在は3歳と1歳の息子がいます。息子と接していると、作業療法士として患者様と関わっている自分と重なることが少なくないと思っています。

できるかできないかではなく、するかしらないかに関わる時、新しいことにチャレンジした時、できなかったことができるようになった時に褒めたり、一緒に喜んだりする時など、多くの共通点が私にはあります。

様々な生活場面における息子や患者様の表情、言葉、しぐさ等も私にも様々な影響を与えてくれます。次の言動に繋がるお互いの関わりは、親子や作業療法士、患者などの肩書きに関係なく、人と人の関わりであると思います。

子育てもリハビリも人の人生に関わっています。なんらかの影響や経験、感情等をお互いの未来に与えられることはとても貴重で光栄なことであり、今後も人との関わりを大切にしようと思っています。



No.9

病院紹介



介護老人保健施設 みの荘

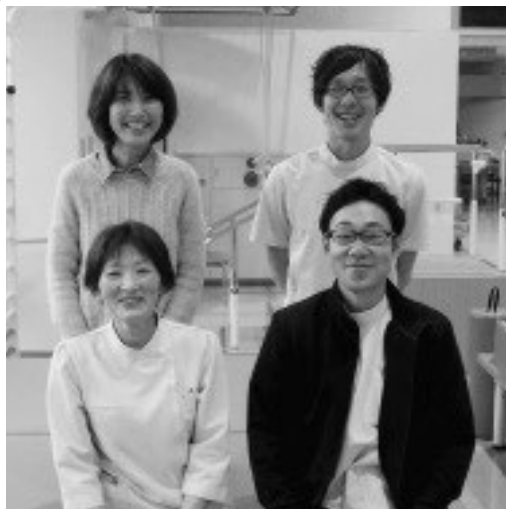
社会福祉法人 三野福祉会 介護老人保健施設みの荘は、四国霊場第71番札所弥谷寺のふもと眼下にみの平野が広がる景観と天然温泉での入浴など心癒される整備された環境の中に建てられています。

平成5年4月開設今年で22周年を迎える歴史のある施設です。

入所定員80名(ショート)を含む通所リハビリ25名定員を理学療法士1名 作業療法士3名のスタッフで関わっています。

施設での理念でもある、利用者様1人ひとりの尊厳を大切に、多職種と共に生活機能の維持・向上を目的に家族との連携のもと在宅復帰、在宅での継続した生活支援を提供しています。

認知症高齢者、後期高齢者、医療的管理を必要とする入所者が増加している現状 家族的雰囲気の中で生活を楽しみながらその人が、その人らしく安心して生活を維持できるように個々に合わせたリハビリを行い今後もサービスの質の向上を目指していきたいと思っています。



先輩の声



No.19 滝宮総合病院

植野ひとみ

(29 年目)



今回、随分と時が過ぎた昔を振り返る良い機会になりました。

私が OT になって3年間老人病院で働いていた頃が一番楽しく、充実していたと思います。当時は、今のように疾患・障害別のマニュアルがあるわけでもなく、モノが揃っていたわけではありません。もちろんパソコンのキーを叩けば色々な資料が出てくる時代でもありませんでした。自助具を作ったり、治療器具を作るために仲間たちとホームセンターやタイル屋さんや手芸屋さんに行ったりと、夜遅くまでわいわい言いながら行っていたことを思い出します。そして、それぞれの患者さんに対して色々なアイデアを取り入れ、アクティビティーを提供していました。

現在は、たくさんのマニュアル化された訓練方法や評価の本が出ており、勉強することで知識を増やすことはできるのですが、その反面あまり個性がなく無難に機械的で面白みや、発想に乏しく事務的な日々を過ごしている自分を感じることも少なくありません。せっかくの OT の「良さ」や「らしさ」が無くなっていくようで淋しい気がします。

職場の環境や忙しさでなかなか難しく、事務的になっていくことが増えている自分自身を反省し、後輩の皆さんにも若い頃こそ時間に縛られず頑張りたいと思います。そして OT の良さを次の後輩たちにつないで欲しいと願います。



No.20 三豊総合病院

名越映理子

(10年目)



私が作業療法士になり、三豊総合病院に就職して10年が過ぎました。学生の時に初めての長期実習で指導していただいた、要潤似のイケメン(笑)の先生に「いろいろな疾患を経験して一人前になるのは10年してからだ」と言われたのがとても印象的で、ずっと心の隅においたまま10年が経過しました。頑張って仕事をしてたくさん学んだらどれほど素晴らしいOTになっているのか、とあの頃は妄想をふくらませていました!!

そして今思うのは、思い描いていたような素晴らしいOTにはまだまだ程遠いという事。たくさんの患者さんに出会い、先輩方から一から指導してもらい、いろいろな人の力を借りてOTにしてもらい、育ててもらったんだという実感。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

ツライことも時にはありますが、急性期なのに毎年患者さんたちとクリスマス会をやっちゃう素敵な職場で、これからも子育てと仕事の両方とも楽しみながら頑張っていくと思います。



新人奮闘記!

～新人OTだから語れる素直な気持ち～

No.5

坂本病院 作業療法士

木村 成子

(1年目)



「患者様と信頼関係が築ける、諦めない作業療法士」を目標とし、臨床に立ち半年が過ぎました。私は主に急性～回復期の患者様に関わらせて頂いています。一人一人の患者様に合った対応や治療を考えることは難しく、日々奮闘しています。まだまだ課題はありますが、たくさんの知識や技術を身につけて患者様の目標に向けたお手伝いができるよう精進していきます。

No.6

香川県 済生会病院

三好 博史

(1年目)



当院は急性期の運動期疾患が多く、様々な年齢層の症例に出会います。急性期としてのリスク管理から始まり社会復帰までサポートします。身体面へのアプローチに加え障害の受容へと精神面を考慮する難しさがあります。疾患に対する知識に加え関わり方なども優しい先輩方から沢山アドバイスを頂き毎日奮闘しています。これから自分も先輩方のようになれるよう日々精進していきたいと思えます。

広告掲載についてのご説明

●広告のサイズと料金 (1掲載につき)

- 1 ページ たて 24cm× よこ 16cm 40,000 円
- 1/2 ページ たて 12cm× よこ 16cm 20,000 円
- 1/4 ページ たて 12cm× よこ 8cm 10,000 円

●広告の原版について

鮮明なものに限ります。写真・マークなども掲載できます。いただいた原版はそのまま印刷されますので、サイズに収まるように作成し、期日までにお送りください。(原版1部、コピー1部)

※ただし印刷の都合上若干、形などが変わることがあります。

掲載希望の方は、

滝宮総合病院 作業療法士 木村勇介までご連絡ください。

TEL:087-876-114 FAX:087-876-1302

連載企画③ 第二弾

「訪問リハビリテーションに従事する 作業療法士に求められる役割」

第 2 話

三豊市立西香川病院
診療部 リハビリテーション科

主任 作業療法士 香川 久圭



前回、訪問リハビリテーション（以下リハ）を取り巻く本邦の社会背景などについて触れた。今回は、そのような社会背景の中で、訪問作業療法士は、何を求められ、何を期待されているのか、どのように専門性を発揮するのかについて解説したい。訪問作業療法士は、身体機能面へのアプローチだけでは十分な対応とは言えない場合が有り、可能な限り効果的且つ効率的に対象者の活動と参加に成果を上げていかななくてはならない。それに役立つのが生活行為向上マネジメントである。対象者の「困っている ADL」へのアプローチの実施は勿論、重要であるが、それだけでなく、対象者の「したい活動（ADL だけでなく、APDL や家庭内役割、趣味活動、地域活動など）」を訪問リハ内容と、さらには日常生活場面や通所系サービスなどで、共通目標に向かって密な連携の下で協同していくことが非常に重要となる。生活行為マネジメントシートや生活行為申し送り表を利用したチームマネジメント力も持たなければならない。対象者の「したい活動」の把握には生活行為聞き取りシートや ADOC の利用も役立つと思われる。訪問作業療法士は、対象者を受身の患者ではなく、主体的に活動する生活者にしていく高い専門性を持つことが重要であるが、チームマネジメント力を考慮するとチームから信頼される高い人間性を併せ持つことも重要である。これらについては、平成 27 年度介護保険改定で訪問リハ及び通所リハにリハマネジメント加算、通所リハに生活行為リハ実施加算がそれぞれ新設されたことから重要性が理解できる。今回は、それらを実践できる作業療法士を育成するために日本作業療法士協会や香川県作業療法士会などが、どのような活動をしているのかなどについて紹介したい。

平成 27 年度 第 2 回 生活行為向上マネジメント基礎研修（概論・演習）を終えて

四国医療専門学校 水上 保孝
(生活行為向上マネジメント 特設委員)

講 師：柴田八衣子先生
(兵庫県立リハビリテーション中央病院 作業療法士)
日 程：平成 27 年 10 月 17 日(土) 16:00～18:00
10 月 18 日(日) 10:00～17:00
会 場：学校法人 大麻学園 四国医療専門学校
丸亀市民会館 第 2・3 会議室
参加総数：概論 11 名、演習 24 名

今回の研修では、兵庫県立リハビリテーション中央病院の柴田八衣子先生をお招きし、生活行為向上マネジメント基礎研修（概論・演習）を開催致しました。これまで概論研修を受けていなかった方は概論・演習の両日共の参加をして頂き、これまでに概論を受講されていた方は 2 日目の演習に参加頂きました。

現在、通所リハにおいて生活行為向上リハビリテーションが制度化され、新たな日常生活支援総合事業ガイドラインには「生活行為」という文字が見られるようになっております。作業療法士として、「生活行為向上マネジメント」の考え方や実際の導入方法等の知識は、すべての作業療法士が共通認識として持っていないといけない時期にきています。

また、今後 1 年間余は「実践者を増やし、より質の高い取り組みを積み上げること」が課題となっていると言われております。

今回の研修 1 日目は、概論研修ということで①生活行為向上マネジメントが誕生した経緯②生活行為向上マネジメントとは何か？③超高齢化時代の介護予防や自立支援に作業療法士としての専門性をどのような形で示すのか…といった内容で講義頂きました。2 日目は、事例提示をした中でグループによる演習研修を行いました。「各グループがしっかり検討されている」と、柴田先生からお褒めの言葉を頂くことが出来ました。

また、柴田先生より「現在、生活行為向上マネジメントの指導資格者がいない県が全国で 4 県あり、香川県がその 1 つである」とのご指摘も受け、県内で指導者を輩出していかなければならない状況であります。指導者育成に柴田先生からも「協力します !!」と力強いお言葉も伺っておりますので、まずは複数名の指導者を輩出することと、実践者を 1 人でも多く輩出していけるように県士会全体の気運を高めていく努力が必要と思っております。まだ受講されていない方は是非とも受講の程、宜しくお願い致します。



第17回

香川県作業療法学会 自助具・治療器具 紹介文

◆所 属：かがわ総合リハビリテーションセンター 馬場 広志
応募区分：自助具

作品タイトル：「早い・安い・簡単」に作れる片手コップ洗い

●作品概要

1：目的、対象

脳卒中片麻痺や上肢の骨折、切断などで片手での動作となる方に対して提供することで、コップなどを洗うことができる。

2：効果、特徴

- ・この作品の特徴として、作成にネジや板に穴をあけるなど特別な工具を必要としない。一般的な100円ショップで販売されており、作ることが容易である。
- ・片手でもコップや水筒などを洗うことができる。
- ・お箸やスプーンなどをこすりつけることで、シンクに置いて洗うよりも容易となる。
- ・片手動作となつてからの役割の一部として導入し、家事再開のきっかけにすることができる。

3：適応と禁忌

使用用途を理解する程度の認知機能が保たれており、片手でコップなどを把持する関節可動域、筋力が保たれている方を適応とする。

●製作・使用方法

1：必要な材料（費用含む）

- ・柄付きスポンジ（フックがあるもの） 108円
- ・食器洗いスポンジ置き（吸盤付きのもの） 108円
- ・パン袋の開け口やコードを束ねるような針金があれば無料（必要に応じて針金など購入）

- ① 柄付きスポンジのフックをスポンジ置きにかけて立てる
- ② 柄とスポンジ置きの接する部分を、針金で適度に巻き付ける

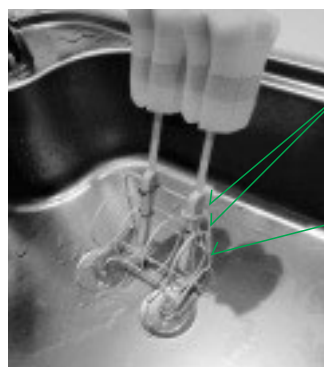
3：使用方法

- ① 吸盤をシンクに付けて固定する
- ② スポンジ部に洗剤をつけて、コップやお箸などをこすり付ける。
(シンクの広さにもよるが、使用後はシンクの端に置いて、食器洗いスポンジも置くことができる。)

●その他

- ・柄付きスポンジの部分は消耗品であり、ここだけ買い替えれば改めて取り付けることが容易。
- ・柄付きスポンジの取り外しが容易であり、骨折で片手動作となつていた場合には、両手動作が可能となったタイミングで、通常の方法でそのまま柄付きスポンジを使用できる。
- ・シンク素材により吸盤の吸着が難しいことも考えられる。

●作品写真



柄とスポンジ置きの接する部分を針金で巻き付ける

柄のフック部分を引っ掛ける

平成 27 年度 保険部研修会開催報告について

保険部長 川崎 眞一

早春の候、県士会員の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成 27 年 6 月 14 日（日）ユープラザうたづ において、保険部研修会「介護報酬改定に関する研修会」を開催しましたのでご報告します。

講師に香川県健康福祉部 長寿社会対策課 在宅サービスグループ 原岡稔之先生をお迎えして、45 名（県士会員 43 名、県外 OT 1 名、PT 1 名）の参加者のもと、約 2 時間の大変有意義な研修会となりました。

研修会の内容としましては、平成 27 年度介護報酬改定に関して、県士会員からの質問に回答していただく形式で行いました。特に在宅サービス関係の質問が多数ありました。尚、今回の改定に関して質問などがありましたら、保険部までご連絡ください。

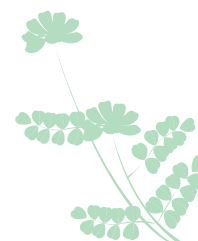
末筆となりましたが、今後とも保険部の活動にご理解ご協力をお願いいたします。



入 会 吉井 里咲 (かがわ総合リハビリテーションセンター)
大北 汐里 (麻田総合病院)
鎌田 和奈 (永生病院)

退 会 藤井 真由
山本 有志
石川 友愛

異 動 安藤 由佳 (厚人病院)→自宅



■(一社)香川県作業療法士会ニュース No.67■

編集長：木村勇介 編集委員：松永智香・山崎悠加・山岡亜裕美・高橋真理・善相原健史・瀬知杏奈・安藤瑞基・大岸未佳・真鍋奈菜・水口未紅・鎌田雄大・高橋優里